

4. 三小校区の野鳥 4、塚田川・牛臥山公園の野鳥 3

沼津市立第三小学校

6 年 中村 太河

1 動機

ぼくは、三年生の春頃から野鳥に興味を持つようになりました。そして、ぼくが住んでいる沼津市立第三小学校の校区では、どんな鳥が住んでいるか知りたと思いました。そこで、三年生の夏休みから継続して研究をしています。

2 研究目的

今まで三小校区にはどんな鳥が見られるかを 3 年間にわたり研究してきました。これまでの 3 年間の研究で、季節によって見られる鳥は異なること、年によって見られる鳥の種類や数に変化があることがわかってきました。

(1) 今までの調査結果

これまでの 3 年間で、62 回調査を行い、3 年生の時に 26 種類、4 年生で 25 種類、5 年生で 10 種類の計 61 種類の鳥を三小校区で観察しました。

スズメ、カワラヒワ、ツバメ、イワツバメ、ウミネコ、ヒヨドリ、カワウ、トビ、キアシシギ、ドバト、キジバト、アオバト、ムクドリ、ハクセキレイ、イソヒヨドリ、コサギ、ゴイサギ、アオサギ、カワセミ、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、カルガモ、メジロ、ミサゴ、ノスリ、モズ、アオジ、クロジ、シメ、ウグイス、ツグミ、ジョウビタキ、ヒガラ、ソウシチョウ、エナガ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、ヒメアマツバメ、オオバン、ヒドリガモ、マガモ、ホシハジロ、スズガモ、アカハラ、シロチドリ、オナガガモ、イソシギ、コガモ、キンクロハジロ、オカヨシガモ、ダイサギ、オオジュリン、ミツユビカモメ、ササゴイ

その結果、

ア 三小校区では年間を通じて、様々な鳥がくらしている。

イ 三小校区では塚田川から牛臥山公園にかけてが、鳥が多くまた種類も多い。

ウ 木があって、エサがあって、水場がある場所に鳥はたくさんいる。

エ 朝の方が鳥が見られる。また、潮が引いている時の方が、水辺の鳥はよく見られる。

オ 潮の満ち引きは、水辺で餌をとる鳥たちの行動に大きく影響している。

川の中に立って魚をつかまえるコサギやアオサギは、満潮時には川の上流で、干潮時には上流から下流までの広い範囲で見られ、浅くてエサのボラがたくさんいる場所に集まる。

カ 湿度による鳥の種類や数の違いは特にならない。

カ 松林は、夏はあまり鳥がいない。しかし冬はいろいろな鳥が見られ、特に実のなっているハゼの木や、松林の竹やぶに多い。

キ 小さな林でも、切られてしまうと、さまざまな鳥が減ってしまった。

それだけ多くの鳥たちが利用しているということであり、木や林を大切にしなければいけないことがわかった。

- ク 年によって数が増減する鳥がいる。
- ケ 10月になると、三小校区では主に狩野川周辺にカモ類などの冬鳥がやってくる。また、カモ類は4月になると渡っていってしまう。
- コ 夏鳥と冬鳥は、ほぼ同じ時期に入れ替わる。
- サ 鳥の種類によって好きな高さはあるが、必ずその高さにいるわけではない。エサをとる時は、地面や水面に降りるが、ふだんは高いところにいる鳥と、エサをとる時もふだんも地面や水面には降りない鳥がいる。
- シ エサがとりやすく、すぐに避難できる場所が近くにある場所に、鳥たちは集まりやすい。といったことがわかりました。

(2) 今年の研究

今年は昨年までの研究をまず継続すると共に、調査地として御用邸公園を追加しました。今まで、御用邸公園周辺はあまり鳥が見られないと考えていたのですが、昨年10月に沼津野鳥の会の探鳥会に参加したところ、公園内には他では見られない鳥たちがいることがわかったためです。また、今年は、ツバメなどの鳥たちがどんな所に巣を作っているのかを調査しました。ツバメは毎年同じ場所で見られます。たぶん同じ場所で巣作りしているからではないかと考えました。だとしたらツバメが巣作りする場所には何か条件があるのではないかと予測し、それを確認してみることにしました。

3 研究の方法

2012年9月から2013年8月まで、毎月1～2回校区内を自転車に乗って回り、肉眼と双眼鏡で探し、見つけた鳥の名前と場所、数を手帳に記録。その後、地図にまとめました。

また、2012年8月8日から8月17日までの夏休み期間は5回、塚田川と牛臥山公園及び御用邸公園内を調査をしました。

巣については通常の調査とは別に5月から7月に、3回調査を行いました。

巣は自転車に乗って三小校区内をくまなく周って探し、どんな所に巣を作っているのかを記録。またツバメの巣は方位磁針で向きも確認しました。

最後に、今までのデータを集計し、4年間の比較をしてみました。

4 まとめと考察

(1) 2012年9月から2013年8月

新しく見つけた鳥の種類：11種類（2010年からの累計72種類）

チュウシャクシギ、アオゲラ、コガラ、ビンズイ、コシアカツバメ、ホオジロ、カシラダカ、ホオアカ、オナガ、コチドリ、キセキレイ

わかったこと：

ア 新しく見つけた鳥の内、4種類を御用邸公園内で見つけた。

イ 過去の記録を集計し、分析してみた結果、増えている鳥と減っている鳥がいる。

人間の生活環境にうまく適合しているムクドリとかシジュウカラといった鳥たちは数を増やしているが、コサギは数を減らしている。

御用邸公園内では、ほかでは見られない鳥が見られることがわかりました。御用邸公園の松林は、牛臥や我入道の松林とつながっているので、これは本当に不思議です。

この点は、引き続き調査してみようと思います。

また、コサギは三小校区に巣がないため、たぶん巣のある場所で何かあったのではないかと予測しています。こういったことも、今後、研究してみたいと思います。

(2) 巣の調査 (2013 年 5 月から 7 月)

わかったこと

ア ツバメ 19 個、スズメ 8 個、ムクドリ 3 個、イソヒヨドリ 3 個の巣が、三小校区内で見つかった。

イ ツバメの巣の向きに決まりはなかった。

ただ、どの巣にも共通していたのは、風の影響をうけにくい場所だということ。三小校区は風が強いので、こういった条件を重視しているのかもしれない。それに加えて人の出入りがあることや、前が開けていること、川や田んぼに近いことが条件のようだ。

ウ スズメは、かわら屋根を中心に、ちょっとしたすきまを利用していた。特に丸いカワラの家が人気だった。

エ ムクドリは高い建物の穴を利用している。

オ イソヒヨドリは、岩場だけではなく、建物や水門などの大き目の穴を利用している。

カ ツバメが巣を作りやすいようにタナを作っている家が我入道町内を中心に何軒かあったが、使っていない家が多くあった。

今年、初めて鳥の巣を調査したが、思っていた以上に巣があつてびっくりした。

ただツバメは、わざわざ巣を作りやすいようにタナを作つてあつても、利用されていない家がけっこうあり、なぜ使われないのか、今後も研究してみたい。

5 感想

毎年新しい鳥が見つかることが驚きです。

そろそろいないだろうと思っていたのに今年は 11 種類も見つかりました。

三小校区にはおどろくほど色々な種類の鳥が住んでいて、今後も調査を続ければ、まだまだ新しい鳥が見つかりそうです。

これは、さまざまな環境が三小校区にはあるからだと思います。

まず三小校区には住宅地の近くに、田畑が残っていますし、塚田川や狩野川、牛臥山や海岸沿いには松林もあります。特に今年から調査をはじめた御用邸公園は、鳥たちにとって住みやすい場所のようです。そして塚田川はきたない川ですが、エサとなるボラの子供がたくさん浅瀬を泳いでいて、海岸や川ぞいには小魚などを食べる水辺の鳥が多く見られます。

また冬になると、狩野川周辺にはいろいろな種類の冬鳥が群れで渡ってきます。

このように、さまざまな鳥たちがくらせる環境はなかなかありません。

また、今年から始めた巣の研究も、やってみたら色々な発見がありました。

特にスズメは驚くような場所で巣作りをしています。

でも最近の新しい家は、ツバメやスズメが巣を作れそうにありません。それが少し心配です。

これからこの環境を大切にして、どうしたらもっともっと三小校区が鳥やほかの生き物が住みやすい場所になるのか、研究を続けていきたいと思います。